

高千穂大学 教職課程だより

ご挨拶

教職課程運営委員会委員長 松丸修三

『高千穂大学教職課程だより』第 1 号を手にとってくださった皆様、こんにちは。

この小冊子を手にとってくださる方として、まずは、①この 3 月に高千穂大学を卒業される皆様、②既に本学を卒業して教員をされている皆様、そして、③本学に在籍されたことはないものの、本学に関心を持ってくださっている皆様と、3 タイプの方々を想定しています。——この 3 月に卒業される皆様には、ご卒業を心よりお祝い申し上げます。皆様が入学された頃の我が国の大学生は、一般にいわゆる就職氷河期の余波に苦しんでいました。最近はその状態が改善されてきて、皆様もさぞほっとされたことでしょう。既に本学を卒業して教員をされている OB・OG の皆様には、しばらくご無沙汰しております、今日の小・中・高の教育に課せられている課題、すなわち、情報化・国際化の進展、不登校問題、いじめ防止対策推進法の施行、道德教育の強化、大学入試制度の改革……などへの対応は、どれをとっても大変なことですね、しかし、それは同時にやりがいのあることでもありますね、と申し上げたいと思います。さらに、本学を卒業されたわけではないものの、本学の現状や将来に関心を寄せてくださっている皆様には、この機会にこの小冊子お読みくださり、本学、特にその教職課程についての理解と関心をさらに深めていただけたら幸甚です、と申し上げたいと思います。

ところで、私ども（教職課程運営委員会）がこの小冊子を発行するのは今回が初めてです。そのようなことになった背景には、本学で学ぶ機会を持たれた方々、及び、本学に関心を持たれている方々に、本学の教職課程の歴史や現状をお伝えし、そうした方々との交流・絆をなおいっそう深めたいという、私どもの願いがあります。

そのような次第で、ここで、本学教職課程の歴史と現状について簡単に触れておきたいと思います。

今から 110 年以上も前の明治 36（1903）年のことですが、川田鐵彌先生（1873-1959）によって高千穂尋常高等小学校が創設されました。本学（高千穂大学）の歴史的な淵源は、この小学校にあります。その本学に教職課程が設置されたのは、昭和 52（1977）年のことでした。それ以来、本学では、一貫した方針と狙いをもって、教員の養成を行ってまいりました。その方針とは、学業成績や適性などを審査した上で、教職課程の履修者を決定する、という方針であり、その狙いとは、①透徹した人間観・教育観に立ち、誠実でしかも情熱をもった教師の養成、②社会の要請に応えうる見識と力量をもった教師の養成、③教科教育に関連する学問領域に深い探究心をもった教師の養成、という狙いです。

本学で取得できる教員免許状は、当初、中学校教諭免許状（社会）と高等学校教諭免許状（社会、商業）だけでしたが、その後、平成 13（2001）年に経営学部が、同 19（2007）年に人間科学部が設けられたため、現在では、商学部とそれらの新設 2 学部を合わせると、小学校教諭免許状、中学校教諭免許状（社会）、高等学校教諭免許状（地理歴史、公民、商業、情報）の計 6 種類の教員免許状を取得できるようになっています。

歴史を振り返って、教員免許状取得者数についても触れておきます。本学で最初の免許状取得者が生まれたのは昭和 54（1979）年度のことでしたが、その時の免許状取得者数は、中学校（社会）が 23 名、高等学校（社会）が 23 名、同（商業）が 31 名でした。それから 20 年が過ぎた平成 11（1999）年度になると、免許状取得者数は、中学校（社会）が 2 名、高等学校（地理歴史）が 6 名、同（公民）が 10 名、同（商業）が 46 名へと変わっています。最近はどうなっているかと申しますと、かつて主力であった高等学校（商業）の免許状取得者はこれほどはおりません。それに代わって、小学校の免許状取得者が主力となっています。

ところで、教員にふさわしい人材をつくるということであれば、その養成過程にある種の厳しさが求められることは言うまでもありません。この観点から、本学では現在、教職課程履修者を選抜していますし、教育実習に派遣する際も、一定の基準に基づいて可否を判定しています。しかし、厳しさだけでよい人材が育つわけではなさそうです。そうした考えに立ってのことだと思われませんが、上で触れました創設者・川田鐵彌先生は、家族主義の教育を唱えられました。さらに、親や教師の愛の大切さを強調されたようにも見えます。本学で教員養成の仕事に携わる私どもも、こうしたよき伝統・思想を受け継ぎ、これからも日々精進してまいりたいと思っています。

これからも本学及び本学教職課程との関わり・交流をどうかよろしくお願い申し上げます。

（人間科学部教授）

○ 本年度教員採用者について

平成 27 年度 新規教員採用者は 8 名（3 月 12 日現在：講師等採用者 2 名含む）、既卒者 1 名（本学把握分）です。卒業生教員の皆様におかれましては、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

教育実習体験報告会 (7月5日)

※『Quarterly 高千穂』第49号(2014年秋号)より転載

※ 詳しくは、<http://www.takachiho.jp/outline/quartery.html> をご覧ください。

教職課程新規履修者面接（2月7日）

平成27年2月7日(土)に教職課程新規履修者面接が実施されました。今年度は商学部から10名、経営学部から4名、人間科学部児童教育専攻から20名の計34名の申込がありました。志望理由書、ゼミ担当教員の推薦状、単位取得状況、面接結果を総合した結果、33名が教職課程の履修を認められました。面接では、1人の学生に対して教職課程運営委員2名の教員が15分程度、教職を志望する理由、理想の教師像、教職課程で学びたいことなどについて質問をしました。こうした面接になれておらず緊張した面持ちの学生も散見されましたが、それぞれが自分なりの言葉で教職を目指す理由を語ろうとしていました。ただ、自分がどんな教師になりたいかは話せても、児童・生徒にどんな教育をしたいのかをきちんと話せる学生はまだ少ないようです。教師に必要な知識や態度を本格的に身につけるのは教職課程履修が始まってからになります。面接で語った志を忘れず、理想とする教師像に近づけるよう心がけてほしいと思います。(岡田有司)

教員採用試験合格者報告会（2月7日）

平成27年2月7日(土)に本年度の「教員採用試験合格者報告会」が、学生76名・教員10名の参加を得てタカチホホールにて開催されました。昨年度は、大雪のため、縮小しての開催となりましたが、今年度は晴れて正式な形での開催となりました。

教員採用試験に合格した2名の学生より、合格に至るまでの学習方法や試験対策についての発表がありました。Oさん(人間科学部児童教育専攻4年、東京都合格)からは、教員採用試験までのスケジュールなどについて、Tさん(人間科学部児童教育専攻4年、横浜市合格)からは、教員採用試験に向け仲間たちとともに面接や論作文対策などを行ったことが報告されました。お二人の実体験をもとにしたアドバイスは、後輩たちの進路に向けて役立つものとなりました。次に、本学OBで、都立高校勤務のT先生より、ご自身の教育実践についてお話がありました。正規教員に採用されるまでの間、非常勤講師を続けながら教員採用試験を受け続けたという先生ご自身の経験談からは、先生になることの大変さと教員になりたいという情熱を持ちつづけることの大切さが、学生たちにも伝わったことと思います。会の最後では、杉並区教育委員会教育長代理/済美教育センター所長白石高士先生よりご講評とご指導を頂きました。

本会の開催にあたりご尽力頂きました事務の方々、お忙しいなかご出席を賜りました並木雅俊本学学長並びに先生方、また白石高士先生に深く感謝申し上げます。(鈴木隆弘)

(終了後、個別アドバイスを受ける学生)



編集後記

今年は例年になく寒い日がいつまでも続いているように感じておりましたが、3月に入って校内のあちこちの花の蕾もだいぶ膨らみ始めてきました。私たちの気がつかないうちに、春の準備が着実に進んでいるようです。

そうした時節に、おかげさまで『高千穂大学教職課程だより』の第1号を皆様にお届けすることができました。今まさに本学で教職課程を履修されている学生の皆様や、かつて本学の教職課程で学ばれて今は教壇に立っておられる卒業生教員の皆様、本学の教職課程の運営をいろいろなかたちでサポートしてくださっている地域の関係者の皆様、そして、本学教職員の皆様に、このようなかたちで今年度の本学教職課程の様子をお伝えすることができ、大変うれしく思っております。

編集にあたりましては、記事のご執筆等を快くお引き受けくださった先生方はじめ、多くの教職員の皆様に惜しみないご協力を賜りました。ここに、謹んで心より御礼を申し上げます。

今回は第1号ということもございまして、記事内容等につきましては不十分な点も多々あったかとは存じます。しかし、今後も定期的に発行してまいりたいと考えておりますので、様々な観点から工夫や改善を行って、より充実した情報のご提供を実現していくことができると検討中です。ですから、次号以降で取り上げた方がよいと思われる記事内容などのアイデアや、改めた方がよいと思われる点などについてのコメント等がございましたら、ご遠慮なく本学教職課程担当者までお寄せいただければ幸いです。

ところで、教職課程の関係者にとりまして、3月終わりから4月初めにかけては、長い間成長する様子を見守ってきた履修学生たちが旅立つ姿を見送り、また、教員になることへの意欲に満ち溢れた新履修学生たちを新鮮な気持ちで迎え入れるという、別れと出会いの時でもあります。そして、そのような“時”を毎年のように共有させていただけることは、教職課程の運営に関わってこそその喜びの一つかもしれないと思っております。

また、まもなく新4年生の教育実習が始まりますが、実習生たちが教壇で一所懸命に授業に取り組む真摯な姿には、毎年のように心打たれるものがあります。中には、講義中の様子からは想像もつかなかったような成長を感じさせてくれる実習生もおります。おそらくこの春の教育実習訪問指導でも、そのようなハッとさせる“時”を体験させられることになるでしょう。そして、そんな時、私は人に気づかれることなく膨らんでいた小さな花の蕾を発見した時と同じような気持ちになります。

春が訪れると一斉に蕾が開くように、1年後、2年後の春に本学教職課程で学ぶ学生たちが一人でも多く晴れて教員として教壇に立つ日が訪れることを願いつつ、できる限りそこに至るまでの道のりの励ましになるような記事内容にしてまいりたいと存じますので、今後とも『高千穂大学教職課程だより』へのご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(松丸啓子)

<本学教職課程の概要について>

(1) 取得可能な免許種

高千穂大学教職課程では、現在、以下の免許を取得することができます。

学部	専攻	取得可能な免許種
商学部		高等学校（商業）／高等学校（公民）／高等学校（地理歴史）／中学校（社会）
経営学部		高等学校（商業）／高等学校（情報）
人間科学部	人間科学	
	児童教育	小学校（全科）

※ 免許状はすべて一種教育職員免許状。

※ 商学部では、高等学校（情報）／経営学部では、高等学校（公民）（地理歴史）・中学校（社会）の免許状取得も可能。

(2) 年間行事

教職課程では、教職課程運営委員会の下、主に以下の行事を実施しています。

月	行事	内容
4月	履修オリエンテーション	春学期履修に向け、学年ごとに実施します。
7月	教育実習体験報告会	教育実習を終えた学生から、教育実習の体験をお伺いします。
8月	教員採用試験対策講座	教員採用を目指す3・4年生の希望者を対象に、採用対策試験講座を行っています。
9月	履修オリエンテーション	秋学期履修に向け、学年ごとに実施します。
11月	新規履修者オリエンテーション	新規履修希望者向けにオリエンテーションを実施しています。
2月	教職課程新規履修者面接	教職課程新規履修希望者を対象に、面接を行い、履修の可否を決定します。
	教員採用試験合格報告会	教員採用試験合格者及びお招きしたOB・OG教員より、合格までの道のりや教員生活の心構えなどをお話頂きます。

※教職課程履修者は「オリエンテーション」「教育実習体験報告会」「教員採用試験合格報告会」参加が義務付けられます。

卒業生及び卒業された皆様へ

- 勤務先の変更・ご自宅の住所変更時
 - 「学力に関する証明書」「単位取得証明書」等、証明書が必要な時
 - 教職課程及び就職課に対する、私立学校からの求人を知りたい時
- 以上の際には、学務部 教務課（TEL:03-3313-0146）までお問い合わせください。

<目次>

- ご挨拶・・・・・・・・・・ p.1-2
- 本年度教員採用者について・・ p.2
- 行事紹介・・・・・・・・・・ p.3-4
- 編集後記・・・・・・・・・・ p.5
- 事務連絡・奥付・・・・・・・・ p.6

「高千穂大学教職課程だより」第1号 平成27年3月20日発行

<平成27年度 教職課程運営委員会>

委員長 松丸修三
 常任委員 鈴木隆弘 委員 岡田有司 委員 倉茂道徳
 委員 五野井郁夫 委員 立石展大 委員 松丸啓子
 教務課 北田 大介 (本年度編集担当:鈴木・松丸啓子)